

新型コロナウイルスの感染が広まっています。学校が休校となり、いつもと全く違った日々をすごしている人も多いのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスについては、皆さんもいろいろな情報を見聞きしていると思います。ところが、信頼できる情報ばかりではなく、不確かなものや誤ったものがうわさとして広まっている場合もあります。不確かで、事実裏づけられていないのに広まっていく情報のことを^{りゅうげん}流言といいます。流言がどれだけ広まるかには、「その事柄が、どのくらい重要か」という重要さと「その事柄が、どのくらいはっきりしているか」というあいまいさの二つが関係しています。

「流言」に気をつけて

何かのうわさを聞いても、たいしたことではなければ、わざわざ他の人に伝えようとは思わないでしょう。しかし重要なことであれば、伝えなければいけないと思うようになります。これが重要さの働きです。

また、インフルエンザなどのよく知られている病気ならば、検査をしてもらえますし、薬もあります。どういう症状がでて、どのくらいで回復するか分かるので、あいまいな点はあまりありません。ところが、よく分からなかったり、これからが見通せなかったりする場合は、不安になります。いろいろな情報を自分で集めようとし、人にも伝えなくてはと考えます。これがあいまいさの影響になります。

新型コロナウイルスの場合は、健康や生活に関わることで非常に重要です。新しい病気ですのであいまいな事柄になります。つまり、流言が生まれやすい状況といえます。

以前の流言は口コミやうわさ話という形でしたので、広がるスピードも遅く、広がる範囲も狭いものでした。しかし、インターネットやSNSの発達した現在では、流言が速く広く伝わってしまいます。自分が、うっかり流言を伝える立場になることもあります。

誤った情報を伝えないようにするのはなかなか難しいことですが、聞いたことをすぐだれかに伝えるのではなく、少し時間を置くようにする。そして、情報の正しさをよく考えてから発信するように心がけるとよいのではないのでしょうか。